

# 「平成 26 年度 看護師研修会」報告書

【期 日】平成 26 年 8 月 6 日(水)

【会 場】アバンセホール

【主 催】佐賀県保育会

【参加者数】107 名

【内 容】研修 1 田中 豊博 氏(佐賀県保育会会長)

研修 2 木附 京子 氏(佐賀整肢学園 こども発達医療センター医師)

研修 3 春高 裕美 氏(九州女子大学 人間科学部 人間発達学科講師)



## 研修 1 報告 『基調報告』田中 豊博 氏

- ・子ども・子育て新制度について
- ・看護師としての心構え

安全面で貢献してほしいと期待している。

他の職員にもしっかり教え、保護者の相談に気軽に応じて信頼できるように。



## 研修 2 報告 『発達障害のお子さんの理解と園での支援』木附 京子 氏

### ○当院での発達障害への対応

### ○発達障害の理解

保育園の中で気になる子。もしかしたら発達障害かも？子ども自身が困っているということ。放置せず、日々の生活の中で子どもを伸ばす工夫が必要。

幼児期の発達障害 診断を受けているかどうかではなく、今子どもが困っていること、苦手なことを支援することが大切。

#### ☆園で問題となりやすい発達障害

- ・自閉症スペクトラム障害…三つの特徴があり、この特徴は長所でもある。(社会性の問題、コミュニケーションの問題、イマジネーションの問題)
- ・注意欠陥多動性障害…生まれつきの脳の機能の問題(不注意優勢タイプ・多動・衝動性優勢タイプ・混合タイプ)

### ○発達障害の対応

発達障害の子どもたちは、困っていることや苦手なことがあっても、他の行動に出してしまうことも多く、それが多くの場合、問題行動や困った行動となってしまう。わざとやっている・不真面目・わがままと誤解されてしまう。

#### ☆園での対応

- ・安全面への配慮
- ・ルール・方法・予定などわかりやすく伝える
- ・困った行動に反応しすぎない
- ・興奮やパニックのときは、刺激を与えずクールダウン
- ・ホッとできる場所やクールダウンできる場所の確保
- ・その子の状態に合わせた到達可能な課題を設定



#### ☆効果的な指示の出し方

#### ☆ほめ方のコツ

#### ☆パニックは子どもたちの心の SOS

#### ☆家庭との協力



### <効果及び評価>

家庭と園の役割は違う。家庭とうまく協力しよう。

おかあさんががんばっているところをほめてあげるなどして、信頼関係を築いたうえで、私たちもお手伝いしますよーと家でできることを提案したりする。

家でリラックスさせると意外と園についてくるものである。

### 研修3 報告 『こんな時どうする！保育所看護師に期待される役割』 春高 裕美 氏

一人の女性が、妊娠→出産→育児 の流れの中で、出会う専門家は助産師から保育士。親はひずみ・戸惑いを感じる。看護師は保育士に知識を普及していく(園内研修を充実する)大きな役割がある。幅広い知識が必要。疾患の既往歴は家庭調査票をみてしっかり把握しておくことが大事。 昔から伝わる保育業界の伝統 ◎かみつき→もむ 本当はもんだらいけない、冷やすも必要ない、水で洗い流すだけでいいと教える。痛かったねえーと精神慰安が大事！ ◎5歳児の夜尿 背景に病気が隠れててることがあるので、安易に大丈夫ですよーと言わない方がよい。

#### ・健康教育・保健指導

ほけんだより(けんこうだより)の作成…保護者に伝えるよい機会。手づくりで体験とかをいれたら、よりよくわかってもらえる。

・園児の健康管理・集団の疾病予防・衛生管理・公的機関としての役割・多施設・他専門機関との連携・園児の発育・発達評価 等々

**事例検討** 五つの事例より この事例ではどうする？

- ・ 喰う・寝る・遊ぶをよく見る。
- ・ けいれんチェックリストを作り活用したらよい。(ホームページに載せてある。専門性を発揮しては。)

保育所看護の一番必要な力はフィジカルアセスメント能力 見極めが大事!



#### <効果及び評価>

看護師としての務めとともに、保育の配慮もしていけないといけない。多様な業務内容を把握し、看護師は診断はできないが、観察・判断をするという大事な役目がある。

(文責:とうぶ保育園 田渕美智子)